

2022 東海大会 予報

大会 2 日目のコース

三河川合駅前— 乳岩川下流左岸 地蔵堂前 (S1) — 乳岩峡登山口— 鬼石 (CP1) —
— 明神山山頂 (1016.3m) (CP2) — 鬼石 (CP3) — 乳岩峡登山口 (G1)

愛知県の奥三河には、2つの明神山が存在する。一つは平山明神山、そしてもう一つが今回コースに設定された三ツ瀬 (みつせ) 明神山である。三ツ瀬明神山は新城 (しんしろ) 市と北設楽郡 (きたしたらぐん) 東栄町にまたがる標高 1,016m の山である。今回は、いくつかあるコースの中から、乳岩峡 (ちいわきょう) から登る。

三河川合駅を出発して、交番の先を左に折れる。突き当りを左折、小学校を通り過ぎて踏切を渡る。しばらく進んで右に曲がり、宇連川を渡る。突き当りを左に折れたところには車止めがあり、その先の地蔵堂前から競技開始である。

まずは乳岩川の左岸に沿って進む。川を渡ってしばらく進んだ車道の終点にはお手洗いが、「乳岩峡」の看板を過ぎると、棧敷岩 (写真右) がある。夏には、涼を求める人々ににぎわう。雨天時は滑りやすくなるので、しっかりと足を降ろして歩く。橋を渡った後は、じめじめとした空気の中を進む。やがて現れる 2 つに連なった橋を渡り、少し登ったところが乳岩分岐である。乳岩峡は国の名勝天然記念物であり、奇岩の織り成す美しいところではあるが、今回はコースではないので、詳しい説明は省く。選手諸君には是非いつか訪れてほしい場所である。



乳岩分岐を過ぎると、やがて左に右に曲がりながら登っていく。この辺りは単調である。つづら折りに登ってしばらくすると、一服の岩があり、さらに進み、左手に大きい岩を見る



と、乳岩川に再び近づいていく。川沿い (沢沿い) にゆるやかに登っていくと、オーバーハングで支点もついている鬼石 (写真左) に着く。ここが CP1 である。荒天の場合は、この地点までの往復となる。

沢を横切り、少し進むと、もう一つオーバーハングの岩があり、こちらもクライマーににぎわう。左側を通り過ぎた先に鬼岩乗越がある。

鬼岩乗越を右に折れると、しばらくホソバシャクナゲの見られる道となる。やがて、胸突八丁の急登が始まる。ここには、木製の小ハシゴやトラロープが整備されている。感謝の気持ちを含めて登り、やや大きな岩を右から回り込んだ後の急登を登りきると胸突八丁の頭であり、ここから尾根にとりつく。

やがて、三ツ瀬からの登山道と合流、左に折れる。快適な稜線歩きの始まりだ。鎖場が 2 か所あり、1 か所目は正面からは見えず、右側についている。充分気を付けて登る。2 か所

目は鎖を使うとかえって滑りやすいので、そのすぐ左奥の岩場をしっかりと三点確保で登る。その先、やはり右側についているハシゴを上ると、馬の背である。正面に山頂を仰ぎ、左前方には電波塔が見える。左手には豊川用水の水源地である鳳来湖、右手には南アルプス深南部を見渡せる。



「あと150m9合目です」の看板の先を登りきると、やがて赤茶色の「明神山展望台」(写真右)が見えてくる。鉄製の立派な展望台である。いよいよ山頂である。ここがCP2である。

山頂からは、奥三河の山々から、南アルプス(写真右)、冬の晴れた日などの視界が良い場合は遥か中央アルプスや富士山も見える。また、葉が3つに裂け、指で歯をすりつぶすと少しツンとした香りが感じられるシロモジが群生している。



さて、下山は西方向である。こちらは乳岩からの登山道よりは人が少なく、時々荒れたところがあるので、引き続き注意して下る。やがて「←乳岩登山口」を左に折れ、しばらくすると、中道ロングコースとの分岐に着く。ここは栃ノ木沢コースの右に折れる。なお、「とちのき」は、国土地理院の地図には「栃木」となっているが、多くの道標には「栃ノ木」となっており、中には「栃の木」となっているものもあることから、いろいろな書き方があるようだ。

ザレている場所もところどころにあるので、慎重に進もう。下り続けると3枚一組が基本の白いガクと丸みを帯びた花卉が特徴的なガクウツギが道の両側にみられ、やがて緩やかになり、トラバースすると、栃ノ木沢口との分岐がある。今回は、栃ノ木沢には下りず、鬼岩乗越に戻るのので、左に折れる。少しだけ登り返して中道ロングコースとの出合を超える。しばらく進むと鬼岩乗越に出合う。それからは、往路を逆にたどり、ゴールである乳岩登山口へ降りる。

なお、この予報は主に4月の情報で書き記している。東海大会で縦走競技が行われるのは、通例では6月第3週の土曜日である。湿度が高く、雨上がりであるかもしれない。ヤマビルの出没も見られるので、十分注意したい。また、梅雨の中休みに当たらない限り、あまり好天が期待できない。その際は、登山道全体がより滑りやすい状況であることも考えられる。きちんと手入れをした登山靴で登り、安全に下山してほしい。

大会3日目のコース

モリトピア前ロータリー (S2) — A キャンプ場東尾根登山口—東尾根展望台—
—シュートン沢分岐—明治百年記念広場(CP・監督合流)—モリトピア前ロータリー (G2)

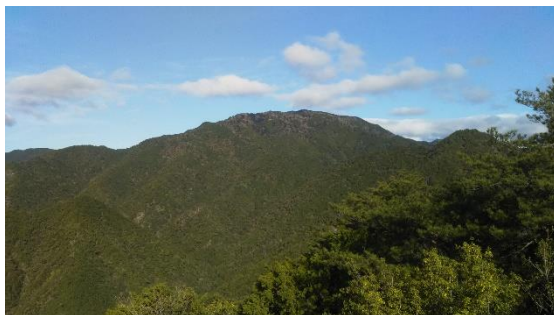
大会3日目のコースは愛知県民の森の中にあり、道標がよく整備されている。もちろん、地図を見て方向を見失わないことは言うまでもないが。

宿泊施設のモリトピア前にあるロータリーがスタートである。橋を渡り左に折れるとAキャンプ場であり、すぐに左手にすぎの木センター(写真右)が見える。その右側にシャクナゲ尾根への登り口がある。常設テントの間を縫うように登っていく。そして、キャンプ場を後にして、高度を上げていく。尾根に出合ったら、シャクナゲ自生林のある右に折れる。その先の木のハシゴは少し朽ちているところもあるので、慎重に足を運ぶ。



やがて、シャクナゲ北尾根と出会う。ここからの下山道は、荒天時ルートの一つである。このように、愛知県民の森には、多くの道が整備され、エスケープルートが豊富にとれるので、多様なコース設定ができる。

この先にはホソバシャクナゲの自生地があり、5月にはピンクの美しい花が咲く。やがて、



アップダウンが続き、手すり代わりに鉄鎖の付いている岩稜を登っていく。しばらくすると、中尾根に出会う。中尾根から赤木沢を下る道も荒天時ルートのひとつである。その先に、東尾根展望台があり、県民の森全体が見渡せ、新城(しんしろ)市と設楽(したら)町にまたがる宇連山が見える(写真左)。

ここから、少しザレた道を下り、ひたすら進む。東尾根はやがて北尾根につながる。境目は「←北尾根/東尾根→」の白い看板である。

シュートン沢分岐までの北尾根はほぼ下りである。やがて平らになり、やや登り気味になったあたりが分岐である。ここを左に折れると、つづら折りの下り道で、手すりの付いた階段になれば、管理道路まではあと少しである。

管理道路を歩くとスギ品種展示林があり、さらに下ると、大津谷林道と合流する。橋を渡ると、明治百年記念広場があり、ここから監督と合流して、パーティー行動となる。

大津谷林道は、大津谷川に沿って進んでいく。しばらく進むと、県の木展示林があり、各都道府県の木が植林されている。岐阜県はイチイ、三重県は神宮スギ、静岡県はモクセイ、そして愛知県はハナノキである。

大津谷橋を渡り、大芝生広場、キャンプファイヤー場を過ぎると、橋のたもとから不動滝が見える。モリトピアの建物が見えてきたら、程なくゴールである。